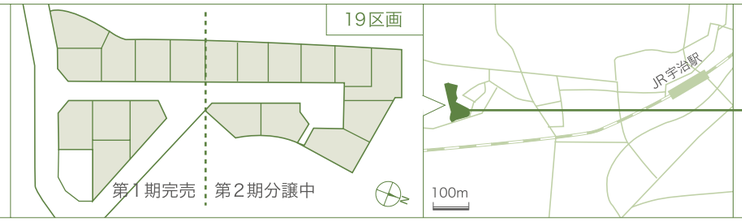
■DATA
所在地：京都府宇治市
19区画全体面積：3143m²（住宅エリア：2076m²）
住戸数:19戸



彩工房
彩の街
京都府宇治市

「向こう三軒両隣り」路地でつなぐ街のデザイン

「彩の街」は、彩工房様が手がけられた初の街並みづくりプロジェクトです。自然素材による住まいづくりは『向こう三軒両隣り』の著書を持つ建築家・田中敏溥さんの協力を得て、京町家を彷彿させる路地のある街並みへと進化しました。

暮らし方を提案する町家型集合住宅「彩の街」

先代からつきあいのある地主の方に土地開発を相談された彩工房様は、単なる建て売りではなく望ましい街並みの提案をしたいと考えられました。

敷地は約1000坪。土地を無駄なく有効に使うために採用されたのが、京町家の知恵ともいえる路地のある街づくりでした。路地は土地効率を高めるだけでなく、近隣の方々の目が届く場所で子供たちが安全に走り回って遊ぶことのできる空間ともなります。見守りの空間は防犯・防災にも有効です。

当初は、共有空間である路地は個人の権利意識が強くなっている時代になじまないとの異論もありました。しかし現在、「彩の街」に住む方々は、路地を共有するおつきあいを通して、何かといえば集まる緊密なコミュニティを育まれています。

彩工房様の理想とされた人と人がつながる街づくりは「彩の街」で確かな実を結びつつあります。

家を育て、街を育てる

住まう方が工夫できる余地を残すというのも「広がり間取り」の家づくり、そして街づくりに共通する考え方です。

例えば、廊下など不要な空間を作らず、リビングを広々と使えるように工夫されています。居室には入口が2ヵ所あり間仕切りも可能ですが、広い1室としての使いやすさを基本とされています。住まう方が空間を自由に使うことで家を育て、家周りには好きな木や花を植えることで街を育てることを理想とされているのです。

もちろん、基本は「永く愛着を持って住める家」です。そのために地域の風土に合った木材を使い、住まう方々にその価値感を共有いただいていることも、街づくりの大きな力となっています。

駐車スペースは板塀前の石畳、自動車がないときは子供たちの遊び場に

開口部を広くとり、奥行きと広がりを感じさせる明るいリビング

路地に面した玄関や窓は、のぞきこめないようにずらしてプライバシーを守る

無垢材がアクセントとなっている落ち着いた家並み、道路にはイロハモミジ、常緑のソヨゴが並ぶ

開放感あふれる2階リビングプラン

※写真提供：彩工房